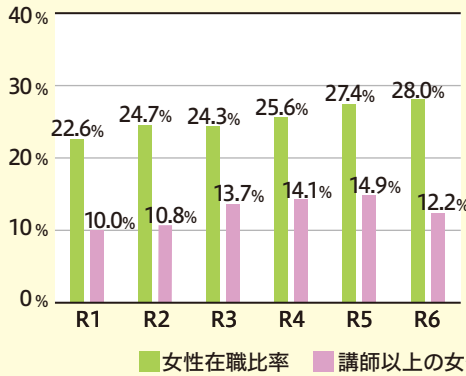




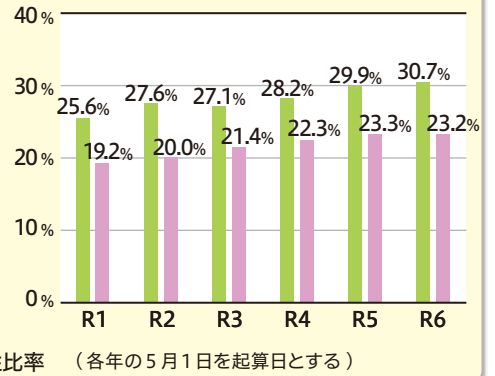
久留米大学医療センター病院長 恵紙 英昭

KG-PROJECTの現状 Present state

自然科学系(医系)の研究者に占める女性割合



大学全体の研究者に占める女性割合



(各年の5月1日を起算日とする)

令和6年度 医学科オープンキャンパス Report

令和6年7月21日(日)、久留米大学医学部医学科のオープンキャンパスに、DI推進室は「リケジョの極み!『女性医師と話そう!』」のコーナーを設けました。当日は、高校生ら37名が友人や家族とともに相談に訪れ、会場は大変活気にあふれました。



具体的には「久留米大学を選んだ理由」「医師になった理由」「医師のキャリア形成や働き方」「地域医療」など、幅広い相談がありました。

また参加者アンケートでは、「ライフプランや医療現場の話が将来の目標設定に非常に参考になりました」「丁寧な回答に感謝します」「皆さんがフレンドリーで話しやすかったです」といった嬉しいコメントを数多くいただきました。私たちの相談コーナーが、高校生たちの将来像を定めるのに役に立ったのではないかと感じています。

相談コーナーを担当した高度救命救急センター医師で講師の大塚麻樹さんや、初期研修医、専攻医、指導医クラスの医師たちは、「将来を見据え、しっかりした考えを持つ相談者が多かった」「真剣な高校生たちから私たちも刺激を受けました」と振り返りました。



女性研究者紹介 Focus



医学部看護学科
助教 岡村 光子

福岡出身。久留米大学医学部看護学科を卒業後、助産学校へ進学。大学病院での臨床を経て、現在は医学部看護学科に所属しております。

母性看護学、助産学(大学院)を専門とし、学生と日々関わる中で看護や助産を学びなおしています。研究は、周産期メンタルヘルスクエアや子育て世代の継続支援に関することをテーマに取り組んでいます。

私的では、4学年違いで3人の子がおり、健やかに成長する子どもとの毎日が活力となっています。この夏は、子どもたちと水族館巡りをしたことが良き思い出です。

有難いことに令和4年度データ入力補助者・解析補助者派遣制度のご支援を受け、学会発表をすることができ、論文を執筆中です。科研も採択されましたので、研究を飛躍できるよう精進していきます。



看護学科母性看護学領域の先生方と

DIコラム ② Column

性を理解する新たな考え方

ダイバーシティ・インクルージョン(DI)推進室 副室長 守屋 普久子

性別をめぐる資格検査で不合格となり世界大会への出場を認められなかったボクシング選手が、パリ五輪に女性枠で出場し話題となった。パリ五輪は近代オリンピックで初めて男女の参加者数が同数となった大会であり、男女の区別という課題を浮き彫りにした。

しかし、性を理解する新たな見方もある。今年6月にDI推進室が開催した「性の多様性セミナー」では、講師の諸橋憲一郎氏が「性をスペクトラムで捉える」という考え方を紹介した。諸橋氏は性スペクトラム研究の第一人者であり、この考え方は、性別をオス対メスという対極の存在としてではなく、オスからメス、メスからオスまでの“連続的”な表現型として理解するものだ。

さらに、ヒトは生涯にわたって性スペクトラム上でメス側またはオス側に行き来し、表現型も変化するというお話は非常に興味深いものだった。この科学的な視点を得ることで、性への理解がより深まったと感じた。

